

テーマ：犬分布図を用いた稟性の傾向分析

発表者： 日本盲導犬協会 神奈川訓練センター 山中真理子

【背景】

盲導犬への成功率を上げるうえで稟性面の改良は欠かせない。当協会の稟性評価項目は 10 以上あり、すべてを同時に改良していくことは難しい。そこで、2014 年より、評価項目を 3 つに絞り、評価の段階を細分化した「犬分布図」を導入した。今回の発表では「犬分布図」の活用方法と、当協会でのデータ分析の結果を報告する。

【方法】

犬分布図の作成には Excel の散布図を利用。評価する稟性は、当協会内の主なキャリアチェンジ理由である優位性、不安猜疑心の 2 つと、すべての稟性のベースとなる感受性の 3 つとした。評価は訓練開始約 1 か月後に、各拠点の訓練責任者に依頼し、さらに訓練開始約 6 か月に再評価を依頼した。評価の方法は、あらかじめ犬分布図内に配置した基準犬と比較する、「相対評価」とした。

【結果】

- ・2016 年 12 月までに 55 胎 287 頭（♂:141 頭♀:146 頭、LR:237 頭 GR:50 頭）のデータを得た。
- ・犬分布図を用いたことにより、視覚的に評価をとらえられるようになった。
- ・評価を数値で得られるようになったため、統計学的な分析が行えるようになり、そこから父犬や母犬の傾向、盲導犬になりやすい犬の傾向等が明らかになった。
- ・分析から得られた父犬の傾向、母犬の傾向を活用することで、以降の交配計画に反映することができ、結果が得られ始めている。

【考察・展望】

血統ごとに優位性や不安猜疑心について、一定の傾向があることが、データの上からも明らかになりつつある。その傾向を参考にすることで、まだ子犬のいない繁殖犬について、その血統の特徴を読み、交配相手を検討することもできる。

当協会では現在、優位性と不安猜疑心に焦点を当てて犬分布図を活用しているが、各協会がそれぞれ改良を加えたい稟性を犬分布図に組み込むことで、他協会でも犬分布図を活用した、犬の改良が可能なのではないかと考える。